

令和7年度 有喜小学校 学校経営方針

令和7年4月1日

1 教育方針

- (1) 日本国憲法、教育基本法並びに長崎県及び諫早市の教育方針や教育振興基本計画（※1）に則り、児童や保護者、地域社会の実態と願いを踏まえ、人間尊重の精神を貴重とし、生き生きとして明るく、秩序と温もりのある校風の確立に努める。

※1 第4期長崎県教育振興基本計画 政策の柱

「つながりが創る豊かな教育」

- ①一人一人に応じた最適な学びを提供する
 - ②新しい時代に求められる魅力ある学校をつくる
 - ③生涯にわたり誰もが学び、活躍できる地域づくりを推進する
 - ④人生や地域に潤いと活力をもたらす、文化芸術・スポーツ活動を推進する
- (2) 児童一人一人を大切にし、健康で安全な生活を基調として、徳・知・体の調和のとれた心身ともに健全な児童の育成に努める。
- (3) コミュニティ・スクール（CS）の利点を活かしながら、学校と地域がWIN-WINの関係を目指す。「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」ために社会に開かれた教育課程の実現を図る。児童が厳しい社会を生き抜くため、「生きる力」を身に付ける。そのために必要な学習指導要領が目指す三つの資質・能力の育成を期し、授業改善と学力向上に努める。
- (4) 教育者としての使命を自覚し、保護者及び地域社会との連携のもと、全職員相和して共に研究と修養に励み、情熱と誠意を児童の教育に傾ける。

2 学校教育目標

やさしく かしく たくましく～仲間と共に 地域と共に 未来を拓く児童の育成～

3 めざす四つの姿

- (1) めざす学校の姿

○子どもが安心して、学び合う学校
○子どもが主体的に学び、力をつける学校
○家庭・地域と連携し、信頼される学校

- (2) めざす教師の姿

○教育愛と使命感をもった教師
○幅広い視野と確かな指導力をもつ教師
○人間性豊かで信頼される教師

(3) めざす子どもの姿

やさしい子	かしこい子	たくましい子
①自分から笑顔であいさつをする <u>(あいさつします わたしから)</u> ②校内のきまり、交通ルールを守る <u>(廊下歩行の徹底)</u> ③いじめをしない、見過ごさない ④時と場に応じた言葉遣いをする ⑤返事をきちんとする ⑥素直に「ありがとう」「ごめんなさい」が言える ⑦人を思いやる ⑧履物を揃える(靴、トイレスリッパ) ⑨時間を守る ⑩学びの場を整える(明日を気持ちよく迎えるための教室・特別教室)	①主体的に諦めずに学ぶ ②進んで学び合う ③学習のきまりをきちんと守る ④進んで発表する ⑤友達の考えを認める ⑥読解力の育成(正しく読む、語彙を増やす、書く活動に進んで取り組ませる) ⑦学習の「振り返り」を書く ⑧体験活動を通して深く学ぶ ⑨外国語の学習を楽しむ ⑩道徳科や学級活動で、思いや考えを進んで話し合う	①目標をもって最後までやり遂げる ②自分の命は自分で守ろうとする ③歩いて登校し、進んで体力づくりをする ④進んで外に出て遊ぶ ⑤手洗い・うがい・歯磨きをきちんとする ⑥正しい姿勢で学習する ⑦無言掃除の徹底する ⑧早寝・早起きをして朝ごはんを食べる ⑨メディア接触をコントロールする ⑩アレルギー対応に留意する

(4) めざす授業の姿(学習指導要領が求める授業展開により、「学び手」を育てる。)

(R6 年度) 「読解力をつけるための学習指導」
 ～国語科を中心にして～

《合言葉》「有喜小の最重要課題(1丁目1番地)は学力向上である」

4 学校経営の方針

- (1) 児童が将来を切り拓いていく力(自立する力・共生する力)となる、豊かな心と確かな力、健やかな身体を育てる教育活動、及びよりよい習慣づくりを推進する。
- (2) CSを核とした、家庭(PTA)や地域社会との連携による「地域と共にある学校づくり」を推進する。
- (3) 教育専門職として研修に努め、学習指導要領に則った授業を展開できる教師集団づくりを推進する。
- (4) 教育活動について共有し、共通理解に立って企画と展開をする。
- (5) 安心安全で、潤いと豊かさのある教育環境を整備する。

5 本年度の重点努力事項

本年度の最重要課題は学力向上である。新学習指導要領の趣旨を理解し、基礎基本を確実に身に付けさせ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。そのための授業改善に努める。

◆令和7年度 学校の合言葉

・ポジティブ ・セルフコントロール

R6…「ときどき わくわく
うきうき 有喜小」

- 思いやりの心もち、仲間と共に切磋琢磨する子どもに育てる
- 「わかる」「できる」ことを増やし、子どもを笑顔にする
- 学習・生活の基礎基本を、確実に身に付ける子どもに育てる
- 何事にも挑戦し、主体的に行動できる子どもに育てる
- 教育活動の中で成長できる子どもに育てる

(1) 教育効果を上げる基盤となる学級・学年づくり

- ①めざす姿の児童の育成を期し、人権尊重の精神を基盤として、児童一人一人の可能性・個性・能力の伸長を図る。
- ②教師と児童、児童同士のふれあい、対話を大切に、心の通い合う、支持的風土のある学級づくりを推進する。
- ③児童の自己肯定感を高める言葉かけを継続する。

(2) 授業改善と学力の向上→**ポジティブ**

- ①「知識技能を教える授業」から、「学び手を育てる授業」への転換
- ②「**主体的学習態度**」「**確かな学力**」を身に付ける授業をめざし、県教委や市教委の提言を踏まえた授業改善に取り組む。特に「**学びのゴールを見定めるめあての設定**」「**書く目的や内容、方法を明確にした指導**」「**まとめと振り返り（学習の価値付け）**」を意識する。
- ③子どもの活躍の場を保障する学習規律の徹底（学習準備、姿勢、話型・聴型、片付け等）

(3) 特別支援教育の推進

- ①特別支援教育Coを中心とした全校的な視野での校内体制の見直し、研修の実施。
- ②昨年度土台づくりができた、個別の支援計画、個別の指導計画を活用し、支援を要する児童の対応を発展させる。
- ③教室からの飛び出し等予想される児童については、全教職員で支援体制を構築し、対応する。
- ④通常学級在籍で個別の支援や配慮を要する児童の情報交換、対応の共通理解。
- ⑤保護者や関係機関との連携（市教委、子育て支援課、特別支援学校、医療機関、少年センター、民間の不登校対応施設など）

(4) 地域と共にある学校づくりの推進

- ①家庭・地域との連携及び情報発信（各種通信、学校HP、安心安全メールの積極的活用）
- ②地域行事等への積極的な協力と参加、地域教材・地域人材活用
- ③CS を活用しながら、学校教育目標の実現を目指す。外部団体との連携（子ども会連合会、地区社会福祉協議会、健全育成会他）も図りながら、よりよい地域や社会をつくっていく人材を育成する。
「いい地域には、いい学校がある。いい学校はいい地域をつくっていく」

(5) 生活習慣・家庭学習習慣の改善（PTAとの連携）→**セルフコントロール**、**ポジティブ**

- ①「早寝・早起き・朝ごはん」の推奨
- ②「歩いて登校」の浸透
- ③「家庭学習の手引き」の配布と指導（宿題＋自主学習「主体的家庭学習」の推進）
- ④テレビ・ゲーム・スマホ・タブレット等のメディア利用時間の適正化（メディアコントロール、ノーメディアデーの実施）、外部講師を招いての系統的なメディアコントロールの学習

(6) 生徒指導の徹底→**セルフコントロール**

- ①担任のみが対応するのではない、組織的な生徒指導を行う。対応はチームで助け合う。
- ①学校いじめ防止基本方針の徹底による組織的ないじめの防止（**毎月のアンケート実施**）
- ②人として許されないこと、善悪の区別、けじめの大切さについての指導徹底
- ③あいさつ・返事・はき物揃え、正しい廊下歩行、無言掃除などの習慣化

(7) 体力の向上と健康・安全教育の充実

- ①自己防衛としての手洗い、換気、うがいの習慣づけ
- ②体力づくりの奨励、運動の習慣化（外遊びの励行、持久走大会への多くの児童参加を目指す）
- ③安全な登下校の指導徹底、各種災害に備える危機管理意識の高揚

(8) 道徳教育・特別活動・人権教育・平和教育の推進

- ①議論する道徳科授業の展開と、児童の変容や成長の適切な見取り
- ②特別活動で「なすことによって学ぶ」人間関係づくり
- ③人に対する思いやりと感謝の心、人権意識を育てる教育活動の推進
- ④戦争・原爆の悲惨さ、平和の尊さを学ばせる平和学習

(9) 校内研修の充実

- ①全国・県・市学力テスト等の学力調査結果を踏まえ、令和6年度中に、弱点の分析は済んでいるので、学校及び学年の実態に応じた課題解決策を検討し実践する。（R6年度市学力テストの結果、2～6学年国算の10教科において、市平均点数を超えたのは1教科のみ）
- ②メンター研修を活用した若手研により、先輩教師の指導技術・教育理念の積極的な継承に努力する。
- ③特別支援教育・ICT活用・服務規律など、幅広い分野・質の研修や現職教育に励む。

(10) 図書館教育の推進と教育環境の整備

- ①子どもたちの手元にいつも図書があり、短時間読書ができる状況づくり。
（R6年度年間、20,000冊超え）
- ②家庭を含めた読書活動の推進、図書ボランティアとの連携強化。
- ③掲示教育の充実による言語環境の整備、学校文化の発信。

(11) 「めざせ！チーム有喜小学校」

- ①各種起案の目標は「めざす児童像・学校像・教師像」に基づいたものにし、目標達成を通じて、学校教育目標の具現化を目指す。
- ②働きやすい職場づくりと不祥事根絶（体罰、飲酒運転、情報管理、ハラスメント等）
- ③危機管理の言葉一、「ハインリッヒの法則」＝「1：29：300の法則」1件の災害（重大な事態）が発生したとき、29件の軽傷を伴う災害（事態）が起き、一歩間違えると、大惨事になるような「ヒヤリ」「ハット」の事件が300件あった。
危機管理の言葉二、「さしすせそ」。
「最悪を想定し、慎重に、素早く、誠意をもって、組織で対応」

(12) 有喜中との連携

- ①小中合同のコミュニティスクールの推進
- ②中学校の先生による乗り入れ授業の実施
- ③学校間の相互参観、情報交換
- ④中学校試験期間に合わせたノーメディアデーの実施

6 全ての人に愛され、信頼される学校をめざして

(1) 子どもが「行きたい」学校

- ①居場所のある学級、安心感のある学級、秩序や規律がある学級、学び合える楽しい学級
- ②分かる授業、主体的に活動できる授業、学びや成長を実感できる授業
- ③一人一人を大切にし、平等に扱ってくれる先生
- ④役割を果たし、みんなで協力する行事や集会

(2) 保護者が「通わせたい」学校

- ①子どもが行きたいと思う学校
- ②学力の保障と、人間関係力の向上に全力を尽くす学校
- ③安心安全で、秩序と温もりのある学校
- ④十分な情報発信と連絡に努め、保護者の願いを踏まえて対応する学校

(3) 地域が「応援したい」学校

- ①子どもたちが行きたい、保護者が通わせたいと思う学校
- ②積極的に情報発信を行い、敷居の低い学校
- ③地域からの願いの理解に努め、町の活動にも協力的な学校
- ④地域に活力を与え、地域と共にあるとする学校

(4) 職員にとって「働きがいのある学校」

- ①自分の能力と情熱が発揮でき、子どもや保護者・地域の願いに応えられる学校
- ②職員が情報を共有し、協力体制のもとで、前向きに教育活動が展開される学校
- ③管理職の理解があり、建設的な意見が言い合える、民主的で風通しのよい学校
- ④「報告・連絡・相談」が密で、計画的な起案や協議がなされ、見通しがもてる学校